|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 第6回 | 2017年5月22日 | 【授業テーマ】刊行絵図からみた洛中洛外 |
| 【検討課題】 | 「都記」とその後継図のタイトルと記載内容の変化から、江戸時代前期の京都の人々の地域認識を考える。 |
| 【授業展開】 | 1.　課題提起 | 2.　近世都市図の刊行とその背景 |
| 3.　江戸時代前期の京都図 | 4.　京都図から考える地域認識 |
| 【Key words】 | 都市図、平安城（洛陽城）、洛外、京 |
| 【事前学習】 | (1)　 | 17世紀初期に刊行された京都の都市図についてこれまでどのような説明が行われてきたのか、確認しておこう。以下の参考文献から１つ以上を選んで該当部分を読み、説明の要点を視野の空欄にまとめておこう。【参考文献】①矢守一彦（1974）『都市図の歴史　日本編』、講談社、141～149頁。②矢守一彦（1984）『古地図と風景』、筑摩書房、181～202頁。③長谷川孝治編（2005）『地図の思想』、朝倉書店、70～71頁。④京都大学総合博物館ほか編（2007）『地図出版の四百年』、ナカニシヤ出版、8～21頁。⑤金田章裕ほか編（2012）『日本地図史』、吉川弘文館、149～164頁。 |